



福岡医発第2198号(地)

平成28年11月 2日

各 医 師 会 長 殿

福 岡 県 医 師 会
会長 松 田 峻一良
(公 印 省 略)

「子どもによる医薬品誤飲事故防止」に関する
啓発活動へのご協力をお願いについて

標記の件につきましては、日本製薬団体連合会より日本医師会を通して別添のとおり通知がありました。

日本製薬団体連合会は、誤飲事故防止啓発を目的にリーフレットを作成しておりますが、今般、厚生労働省の監修で新たなリーフレットが別添のとおり作成されました。

つきましては、貴会におかれましても本件についてご了解いただくとともに貴会会員へ周知方よろしくお願いいたします。

なお、本リーフレットは日本製薬団体連合会ホームページ（下記 URL）からダウンロードできます。

記

http://www.fpmaj.gr.jp/documents/nyp497-A_000.pdf

<http://www.fpmaj.gr.jp/documents/nyp497-B.pdf>

<http://www.fpmaj.gr.jp/documents/nyp497-C.pdf>

小郡三井医師会より

医療安全管理担当理事 吉武靖博
会長 白石恒明

(法安 92)

平成 28 年 10 月 5 日

都道府県医師会
医療安全担当理事 殿

日本医師会常任理事
今村 定臣

「子どもによる医薬品誤飲事故防止」に関する啓発活動へのご協力のお願い

昨今の「子どもによる医薬品誤飲事故」の防止対策として、日本製薬団体連合会では誤飲事故防止啓発リーフレットを作成しております。本リーフレットは、医療従事者が、保護者や孫などが同居する患者などに配布することを目的として作成されたものです。

今般、そのリーフレットに「監修 厚生労働省」の文字が追記されたことをもって、日本製薬団体連合会より本会宛、啓発活動への協力方依頼がありました。

つきましては、貴会におかれましても本件についてご了知いただき、啓発活動への協力にご高配賜りますようお願い申し上げます。

なお、リーフレットは日本製薬団体連合会ホームページ（下記 URL）からダウンロードできます。3 種類の図案を必要に応じてお使いいただきますよう、ご案内いたします。

記

http://www.fpmaj.gr.jp/documents/nyp497-A_000.pdf

<http://www.fpmaj.gr.jp/documents/nyp497-B.pdf>

<http://www.fpmaj.gr.jp/documents/nyp497-C.pdf>

以上

日薬連発第661号
平成28年9月15日

公益社団法人 日本医師会
担当理事 殿

日本製薬団体連合会
安全性委員会委員長
荒井 美由紀

「子どもによる医薬品誤飲事故防止」に関する啓発リーフレットへの
厚生労働省名義使用のご連絡

昨今の「子どもによる医薬品誤飲事故」の防止対策には医療従事者を介して保護者に継続的な注意喚起を行い、家庭での医薬品の適切な管理、保管を促すことが重要とされております。

日本製薬団体連合会（以下日薬連）では「子どもによる医薬品誤飲事故防止」に関する啓発リーフレットを作成し、日薬連ホームページへ掲載し、啓発活動へのご協力をお願いをしているところです（平成28年7月28日付 日薬連発第558号）。

この度、当リーフレットに厚生労働省名義を使用する許可が下りましたので、「監修 厚生労働省」の文字を追記し、新リーフレットとして日薬連のホームページへ掲載いたしました。ご使用の際には、新リーフレットをご利用頂きますようお願い致します。

本件につき貴会会員に周知いただき、子どもによる医薬品誤飲事故を少なくするための啓発活動に引き続きご協力いただけましたら幸甚に存じます。

添付ファイル

○平成28年7月28日発 日薬連発第558号

○新リーフレット3種類



日薬連発第558号
平成28年7月28日

公益社団法人 日本医師会
担当理事 殿

日本製薬団体連合会
安全性委員会委員長
荒井 美由紀

「子どもによる医薬品誤飲事故防止」に関する啓発リーフレットの
日薬連ホームページへの掲載のお知らせ及び啓発活動へのご協力をお願い

昨今の「子どもによる医薬品誤飲事故」に関する各種の報道がなされている中で、その防止対策には医療従事者を介して保護者に継続的な注意喚起を行い、家庭での医薬品の適切な管理、保管を促すことが重要とされております。

この度、日本製薬団体連合会 安全性委員会におきまして、その点を踏まえ3種類の誤飲事故防止啓発リーフレットを作成し、そのPDF ファイルを日薬連ホームページに掲載いたしましたのでご案内申し上げます。

本リーフレットは、医療従事者の方が日薬連ホームページにアクセスし、使いやすい大きさにプリントし、保護者やお孫さんなどが同居する患者さんなどに配布いただくことを目的として作成したものです。

つきましては、本件につき貴会会員に周知いただくとともに、貴会ホームページへの掲載やPDF ファイルの配信等により、子どもによる医薬品誤飲事故を少なくするための啓発活動にご協力いただけましたら幸甚に存じます。

なお、医療従事者が図柄や文言を選択し、必要に応じシリーズで3回配布できるように3種類の図案を作成したことを申し添えます。

「医薬品」 子どもの誤飲を防ぐ 3つのルール



一、見えないところ
にかたづけましょう。

二、手の届かないところ
にかたづけましょう。

三、服用後すぐ
にかたづけましょう。

家庭に持ち帰った医薬品を、
子どもが誤飲するケースが多発
しています。

これを防ぐためには、まず専用の
薬入れと保管場所を確保して
ください。

間違いやすいお菓子の空き缶
などは使用しない。

専用の薬箱や子どもが開けにくい
容器に入れ、使用後はすぐに定
位置へ戻す習慣を。

扉のついた高い棚や鍵のかかる
場所なら安全・安心です。

子どもが誤って薬を飲んでしまったら！

つくば中毒110番

029-852-9999
— 365日・9～21時対応 —

大阪中毒110番

072-727-2499
— 365日・24時間対応 —

小児救急電話相談

#8000
— 365日対応 —

日本製薬団体連合会
(監修 厚生労働省)

保護者の皆さんへ

家庭に持ち帰った医薬品の
子どもによる誤飲が多く発生しています
子どもの行動を考えて、
家庭における薬の保管に注意しましょう

乳幼児のくすりの誤飲は大人の責任。
くすりは子どもに見えないところ、高いところ、
手の届かないところで保管しましょう。

✓ 推 奨

- ✓ 高さ120cm以上のところに子どもが開けられない鍵の付いたくすり箱等で保管する
- ✓ 子どもの見ているところでくすりを飲まないようにする（子どもは親のマネをしたがる）

子どもが医薬品を誤飲した際の相談機関

（例）中毒110番・電話サービス、小児救急電話相談（通話料は相談者負担）

つくば中毒110番

029-852-9999

365日・9～21時対応

大阪中毒110番

072-727-2499

365日・24時間対応

小児救急電話相談

#8000

365日対応

日本製薬団体連合会

（監修 厚生労働省）

保護者の皆さんへ

乳幼児のくすりの誤飲は 大人の責任。

くすりは子どもに見えないところ、
高いところ、手の届かないところで
保管しましょう。

家庭に持ち帰った医薬品の子どもによる誤飲が
多く発生しています
子どもの行動を考えて、家庭における薬の保管に
注意しましょう

推 奨

高さ120cm以上のところに子どもが開け
られない鍵の付いたくすり箱等で保管する
子どもの見ているところでくすりを飲まない
ようにする(子どもは親のマネをしたがる)



子どもが医薬品を誤飲した際の相談機関（例）

中毒110番・電話サービス（通話料は相談者負担）

つくば中毒110番（365日 9～21時対応）電話：029-852-9999
大阪中毒110番（365日 24時間対応）電話：072-727-2499

小児救急電話相談（通話料は相談者負担）

＃8000番（365日対応）
お住まいの都道府県によって時間帯は異なります

日本製薬団体連合会
（監修 厚生労働省）